

健やか親子21推進協議会・参加団体の行動計画（課題3）
 -小児保健医療水準の維持・向上させるための環境整備-

団体名	課題に対する団体としての15年度の取り組み	15年度の取り組み実績	16年度の取り組み行動計画
1. SIDS家族の会	26.乳児のSIDS死亡の防止 36.	26.乳児のSIDS死亡の防止 ※講演会実施（大阪府、9月23日、約50名参加） 講師：グリーンカウンセラー 米虫圭子 目的：（テーマ）「幼い命を亡くした家族へのケア」 ※講演会実施（熊本市、11月19日、21名参加） 講師：熊本地域医療センター小児科部長 後藤善隆 目的：（テーマ）「小児救急医療における突然死」 ※遺族のためのミーティング開催 目的：SIDSなどで赤ちゃんを亡くした家族の精神的サポートを行う 参加人数：約500名 開催数、方法：45回、各支部にて企画、開催 北海道、宮城県、埼玉県、千葉県、東京都、神奈川県、富山県、愛知県、大阪府、京都府、和歌山県、福岡県、熊本県で開催 効果、その他：近年、SIDS以外の死産、流産、周産期死亡の遺族の参加が増え、次の妊娠のためにも、赤ちゃんを亡くした悲しみを癒すケア活動の必要性を痛感する ※医療機関に対するアンケート実施 SIDS発生後の対応に関するアンケートを医療機関等に実施、 産婦人科160、小児科120、保育園300施設から回答を得る 36.乳幼児期のうつぶせ寝の防止 危険因子パンフレットの販売 約20000部を販売	26.乳児のSIDS死亡の防止 ※遺族のためのミーティングを継続開催 ※7月にカナダで開催される国際会議に参加し、最新のSIDS研究の成果を入手すると共に、平成18年に日本で開催する国際会議の案内を行う。 36.乳幼児期のうつぶせ寝の防止 ※危険因子パンフレットの継続販売

健やか親子21推進協議会・参加団体の行動計画（課題3）
-小児保健医療水準の維持・向上させるための環境整備-

団体名	課題に対する団体としての15年度の取り組み	15年度の取り組み実績	16年度の取り組み行動計画
2.(社福)恩賜財団 母子愛育会	1.2.3.4.5.	<p>1. 母子保健関係者に対する研修会・講習会の実施 目的・対象者及び参加人員 ① 保健師に対し、母子保健に関する最新知識と今日的課題への対応及び保健指導技術を修得させた。自治体の保健師 100名 ② 栄養士に対し、乳幼児期の食生活・栄養に関わる知識・情報を提供し、栄養相談を展開するための技術を学ばせた。自治体勤務の栄養士 30名 ③ 母子保健の課題と最新情報に関する講義、事例研究等により、専門指導員を育成した。自治体勤務の保健師・助産師・看護師等 30名 ④ 医師、助産師及び看護師に対し、新生児・未熟児の診断・治療・看護等に関する最新の理論と技術を提供した。医師・助産師・看護師 290名 ⑤ 臨床検査技師に対し、最新の技術と情報を提供し、技術者の資質を高めた。先天性代謝異常症等検査技術者 50名</p> <p>2. 子ども家庭福祉情報等の提供事業 目的～子ども家庭福祉に関する各種情報を幅広く関連機関職員や研究者等に提供した。 情報収集リスト～ ①国の施策、審議会、懇談会等②虐待問題、里親問題等③病気・医療 ④健やか親子21関連 ⑤子育て支援 ⑥児童福祉施設・養護施設 ⑦障害児に関すること等 Web版「愛育ネット」による情報提供～解説論文・行政情報及び統計情報 専門図書資料の収集及び閲覧～蔵書数 約5千冊、文献資料 約1,500件</p>	<p>平成15年度の取組実績に準じ、下記のとおり実施する計画である。</p> <p>1. 母子保健関係者に対する研修会・講習会の実施 実施内容及び対象範囲を再検討して実施する。</p> <p>2. 子ども家庭福祉情報等の提供事業 内容の充実を図り、実施する。</p> <p>3. 愛育班員等研修会 愛育班員の拡充と指導員の増員を図る。</p> <p>4. 子ども総研式・子育て支援質問紙の作成・頒布 設問内容を要望に添ったものに再検討し、作成する。</p> <p>5. 専門里親養成教育の開催 地方自治体からの要望に応じられるよう、関係方面と協議して実施する。</p>
2.(社福)恩賜財団 母子愛育会		<p>3. 愛育班員等研修会～市町村の愛育班員及び各保健所の保健師を対象に、中央及び地方における指導者・講師の派遣及び研修会等の開催 10回</p> <p>4. 子ども総研式・子育て支援質問紙の作成・頒布～育児不安の軽減を図るために、育児不安の関連要因を評定できるような質問紙を作成し、頒布した。</p> <p>5. 専門里親養成教育の開催～厚生労働省が平成14年度から導入した「専門里親」を養成するための理論と実践について教育した。 100名</p>	

健やか親子21推進協議会・参加団体の行動計画（課題3）
-小児保健医療水準の維持・向上させるための環境整備-

団体名	課題に対する団体としての15年度の取り組み	15年度の取り組み実績	16年度の取り組み行動計画
5.子どもの心・体と環境を考える会	小児保健医療水準の維持・向上に関する学際的なエビデンスの集積	<p>○研究会誌「子どもの健康科学」第4巻1号発行 第4回学術大会の講演およびシンポジウム（「現代の子育てに対する地域支援の在り方」「わが国の将来を担う子どもの健全な育成のために」）について、演者が論文化した研究会誌200部を発行、配布した。</p> <p>○第5回学術大会開催 平成15年12月12日(金)13日(土)の両日、千葉大学けやき会館にて開催。参加人数約150名。「今考えよう！子ども達の環境と未来を」をメインテーマとし、2つのシンポジウム、2題の講演、3セッション11題の一般演題発表が行われた。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・シンポジウムⅠ：「飯倉教授追悼シンポジウム」 ・シンポジウムⅡ：「生き生きとした子どもを育む環境作り」 ・特別講演：「小児と環境ホルモン」 ・教育講演：「こどもの心身症」 ・その他一般演題では、「当院小児病棟の音環境の問題点とその改善方法ーより良い音環境に配慮した病室作りを目指してー」「多職種スタッフによる心療科病棟入院児生活プログラム(レインボースクール)の試み」「子どもの養育環境整備に関する実践的研究ーこども会議の果たした役割ー」等、《課題3》に関連した研究報告がなされた。 <p>○第2回テーマ別研究会開催 平成16年3月13日(土)、東京医科歯科大学臨床第二講堂にて開催。参加人数50名。「第1部：研究方法立案ベシクー疫学を中心とする研究のデザインと倫理ー(京都大学大学院医学研究科助教授：中山健夫先生)」「第2部：質的研究パート2ーテキスト型データ解析の進め方：量的研究と質的研究のインターフェイスー(久留米大学大学院心理学研究科教授：津田 彰先生)」。</p>	<p>○第6回学術大会開催 長嶋正實大会長(あいち小児保健医療総合センター：センター長)の下、平成16年12月4日(土)5日(日)に第6回学術大会を開催予定。場所はあいち小児保健医療総合センター大会議室、参加人数は200名程度を予定。メインテーマは「こどものこころ・体と環境をもつと健康に」とし、セミナー、教育講演、特別講演、2つのシンポジウム(「子どもの療養環境を考えよう」「軽度発達障害」)、一般演題発表、等のプログラムを現在準備中。</p> <p>○会員の質的向上を目指した研究会「テーマ別研究会」において、子どもに関する、研究や実践に役立つ課題を取り上げる。</p> <p>○研究会誌「子どもの健康科学」第4巻第2号、第5巻第1号を発行する。</p> <p>○会員相互の情報交換・意見交流を目的としたメーリングリストの活用。</p>

健やか親子21推進協議会・参加団体の行動計画（課題3）
 -小児保健医療水準の維持・向上させるための環境整備-

団体名	課題に対する団体としての15年度の取り組み	15年度の取り組み実績	16年度の取り組み行動計画
15. 全国保健所長会	33.家庭での事故防止対策の推進	33.家庭での事故防止対策の推進 1「子ども健やかセーフティ事業」 目的：不慮の事故、乳幼児突然死症候群（SIDS）等による乳幼児死亡率を減らし、安心して子どもを育てることができる環境づくりの推進を図る。 (1)事故情報の収集・分析・発信 ①県内5ヶ所の定点医療機関からの事故情報を収集 月1回、医療機関より事故情報の報告→当所にて情報入力 ②収集した事故情報を分析 ③分析結果を基に、子どもセーフティ通信を作成し、県内の医療機関・保育所・市町村・保健所等に発信（約1,000ヶ所） (2)事故予防啓発活動の実施 ①事故予防に関する展示（子どもセーフティセンター） ②子どもセーフティライブラリーの設置 ③事故予防教室の実施 実施回数：8回 参加人数：146名（保育園児の保護者等） ④関係職員に対する研修会の開催 実施回数：1回 参加人数：38名（保育関係者） ⑤事故予防に関する相談窓口の開設 相談件数：1件	33家庭での事故防止対策の推進 1「子ども健やかセーフティ事業」 目的：不慮の事故、乳幼児突然死症候群（SIDS）等による乳幼児死亡率を減らし、安心して子どもを育てることができる環境づくりの推進を図る。 (1)事故情報の収集・分析・発信 ①県内5ヶ所の定点医療機関からの事故情報を収集 月1回、医療機関より事故情報の報告→当所にて情報入力 ②収集した事故情報を分析 ③分析結果を基に、子どもセーフティ通信を作成し、県内の医療機関・保育所・市町村・保健所等に発信予定（約1,000ヶ所） (2)事故予防啓発活動の実施 ①事故予防に関する展示（子どもセーフティセンター） ②子どもセーフティライブラリーの設置 ③事故予防教室の実施 ④関係職員に対する研修会の開催 ⑤事故予防に関する相談窓口の開設
17. 全国保健師長会	37.38.	37 予防接種(BCG)の必要性の周知と接種の勧奨の強化 38 予防接種(三種混合・麻疹)の必要性の周知と接種の勧奨の強化 * 予防接種の確認及び勧奨強化 目的：予防接種の完全実施により、疾病の発症や死亡を予防する。 参加人数(対象者)： 開催数、方法等：転入時相談、母子手帳交付時、乳幼児健診時、就学前健診時を通じ、接種の確認や勧奨を実施した。 効果、その他：課題として接種率に差があり、日本脳炎や麻疹の接種率を高める必要がある。	

健やか親子21推進協議会・参加団体の行動計画（課題3）
-小児保健医療水準の維持・向上させるための環境整備-

団体名	課題に対する団体としての15年度の取り組み	15年度の取り組み実績	16年度の取り組み行動計画
19. NPO難病のこども支援全国ネットワーク	病気や障害のある子どもと家族のQOL維持・向上のために、情報提供と交流活動を進める。	<p>1. 相談事業 ○ネットワーク電話相談室/月～金曜日11時～15時 医療や教育福祉に関する相談を受け付けている。 ○遺伝（先天異常）特別相談/毎月第4金曜日14時～17時 黒木良和前神奈川県立こども医療センター所長が相談を受けている。</p> <p>2. サマーキャンプ“がんばれ共和国” ○あしがらキャンプ/8月1日～3日 神奈川県大井町。 ○七夕キャンプ/8月8日～10日 宮城県蔵王町 ○おいでんほうらい/8月22日～24日 愛知県鳳来町。 ○がんばれ共和国 in九州/8月22日～24日 大分県湯布院町</p> <p>3. 親の会活動支援 現在42団体が参加して研究・研修活動を進めている。今年度は小児慢性特定疾患治療研究事業の法制化に取り組んだ。 定例会は4月、7月、10月、1月に開催。臨時会議は12月にもった他、1月に研修旅行を実施した。また、5月3日は「小児慢性疾患フォーラム」を開いた。</p>	<p>1. 病気や障害のある子の家族を対象とした相談事業 ◎相談実業/TEL03-5840-5973 ○ネットワーク電話相談室 月～金 11:00～15:00 ○遺伝（先天異常）特別相談 毎月第4金曜日 14:00～17:00 ◎ピア・サポート事業 病気や障害のある子どもを育てた経験のある方を対象にトレーニングし家族からの相談を受ける。</p> <p>2. サマーキャンプ“がんばれ共和国” ○おーきな輪キャンプ/沖縄県名護市 7月30日～8月1日 ○七夕キャンプ/ 宮城県蔵王町 7月31日～8月2日 ○あしがらキャンプ/ 神奈川県大井町 8月6日～8日 ○がんばれ共和国 in九州/大分県湯布院町 8月20日～22日 ○おいでんほうらい/ 愛知県鳳来町 8月27日～29日</p>
19. NPO難病のこども支援全国ネットワーク		<p>4. プレイリーダー養成講座の開設と活動支援 養成講座は5月、10月、2月に開講し43名が受講した。修了者は入院している子ども達に遊びを提供するボランティアとして活躍している。研修会は5月と11月に実施した。</p> <p>5. 病弱教育セミナー2004の開催 病弱教育担当教諭を対象に1月9日から11日まで開催し48名が受講した。</p> <p>6. 養護教諭セミナー2003の開催 養護教諭を対象に、病気や障害のある子ども達の理解を求めて、10月25日、11月1日、8日に開催し80名が受講した。</p> <p>7. こどもの難病シンポジウム——PHPから学ぶ 12月6日米国PHPから代表者を招き国際シンポジウムを開催した。</p>	<p>3. 親の会活動支援 ◎親の会連絡会の開催。研修会の実施、PR活動他。 ◎小児難病親の会ハンドブック2004の発行。</p> <p>4. プレイリーダー養成講座の開講と活動支援 プレイリーダーは入院している子どもに遊びを提供するボランティア。これまでに100近くが修了している。講座は今期は3回開催し研修会は2回開催する。</p> <p>5. こどもの難病シンポジウム——死の受容と生き方への支援 平成16年5月22日(土)国立オリンピック記念青少年総合センターで開催。</p> <p>6. 病弱教育セミナー2005の開催 病弱教育担当教諭を対象に1月14日から16日まで開催する。</p> <p>7. 養護教諭セミナー2004の開催 養護教諭を対象に、病気や障害のある子ども達の理解を求めて、11月13日～14日まで開催する。</p>

健やか親子21推進協議会・参加団体の行動計画（課題3）
 -小児保健医療水準の維持・向上させるための環境整備-

団体名	課題に対する団体としての15年度の取り組み	15年度の取り組み実績	16年度の取り組み行動計画
20.(社)日本医師会	35.38. ①乳幼児保健検討委員会開催 ②乳幼児保健講習会開催	35.保護者への心肺蘇生法の周知 「あなたにもできる心肺蘇生法」カードの作成・配布 作成部数：約200万部 配布先：都道府県・郡市区医師会 官公庁他 38.予防接種（三種混合・麻しん）の必要性の周知と接種の勧奨の強化 予防接種週間の実施（特に麻しん予防接種率の向上を目指して） 平成16年3月1日（月）～7日（日） 実施医療機関：約7000 ① 乳幼児保健検討委員会の開催 会長諮問「乳幼児が心身ともに健やかに育つための諸課題（地域における連携、病後児保育のあり方等）」答申作成 ② 平成15年度乳幼児保健講習会の開催 平成16年2月16日（日） 「育児と仕事を両立できる社会環境づくりを目指して」 対象：日本医師会会員 参加人数：約500人	35.保護者への心肺蘇生法の周知 「あなたにもできる心肺蘇生法」カードの作成・配布 作成部数：約200万部予定 配布先：都道府県・郡市区医師会 官公庁他 38.予防接種（三種混合・麻しん）の必要性の周知と接種の勧奨の強化 麻しん等予防接種推進キャンペーン（子ども予防接種週間）の実施 ① 乳幼児保健検討委員会の開催 ② 平成16年度乳幼児保健講習会を開催予定 対象：日本医師会会員 参加人数：500人を予定

健やか親子21推進協議会・参加団体の行動計画（課題3）
-小児保健医療水準の維持・向上させるための環境整備-

団体名	課題に対する団体としての15年度の取り組み	15年度の取り組み実績	16年度の取り組み行動計画
22. (社) 日本家族計画協会	23.24.25.26.27.28.29.30.33.34.35.	<p>23.24.25.26.27.28.29.30.33.34.35.機関誌『家族と健康』を通して、「健やか親子21」関連記事を積極的に取り上げる。</p> <p>27.28.33.34.35.乳幼児事故予防セミナーの開催</p> <p>1. 期 日：平成15年10月4日(土)～10月5日(日)</p> <p>2. 会 場：人事労務会館(東京都品川区大崎)</p> <p>3. 参加者数：51名</p> <p>4. 後 援：厚生労働省・国土交通省・(社)日本助産師会・(社)母子保健推進会議</p> <p>5. 指 導：子供の安全ネットワーク・ジャパン</p> <p>6. 協 力：(社)日本自動車連盟(JAF)</p> <p>7. 内 容：<講義Ⅰ> 「健やか親子21」における乳幼児の事故予防 <講義Ⅱ> 「我が国の子どもの事故の現状と対策」 <講義Ⅲ> 「子どもの事故予防対策」 <講義Ⅴ> 「子どもの事故予防の実態とチャイルドシート」 <実習> 「いろいろなチャイルドシートを正しく装着するための実習」 <講義Ⅵ> 「子どもの事故の情報収集システムと評価」 <事例研究> 「子どもの事故予防の進め方」</p> <p>8. 講 師 緑園こどもクリニック 院長 山中龍宏 山梨大学大学院医学工学総合研究部 教授 山縣然太郎 誠仁會伊藤病院 副院長 伊藤將史 (社)日本自動車連盟 公益事業部 大野芳久 宮腰直人</p>	<p>小児保健医療水準を維持・向上させるための環境整備</p> <p>23.24.25.26.27.28.29.30.33.34.35.機関誌『家族と健康』を通して、「健やか親子21」関連記事を積極的に取り上げる。</p> <p>27.28.33.34.35.乳幼児事故予防セミナーの開催と予防啓発</p> <p>1. 第11回乳幼児の事故予防セミナーの開催 期 日：10月9日(土)～10月10日(日) 会 場：桐杏学園(東京都豊島区) 対 象：保健師、助産師、看護師、保育士、看護教員、母子保健推進員、医師、看護教育関係者等</p> <p>2. 指導教材の開発と頒布</p>

健やか親子21推進協議会・参加団体の行動計画（課題3）
 -小児保健医療水準の維持・向上させるための環境整備-

団体名	課題に対する団体としての15年度の取り組み	15年度の取り組み実績	16年度の取り組み行動計画
22. (社) 日本家族計画協会		<p>1) 育児、事故予防などの推進に寄与する健康教育教材の開発並びに頒布 (1)子どもの事故予防データベース (http://www.jfpa.or.jp/14-jiko/index.html)</p> <p>(2) これで防げる子どもの事故・目で見える子どもの事故予防 ■定価262円(税込み) ■A判変型・32頁/表紙カラー・本文2色刷 ■緑園こどもクリニック院長 山中 龍宏 著 乳幼児の死亡原因の第一位は不慮の事故。この状況は数十年前から変化がありません。子どもの命が毎日脅かされている現状を私たちはどれだけ理解し、その解決策を持っているでしょうか。長年にわたり小児医療の中から子どもの事故に取り組み、予防と対策を訴え続けていた著者が、子どもの事故を未然に防ぐために、私たちが考え実行しなければならない事を、臨床経験にもとづいて書かれた親向けの冊子です。乳幼児の交通事故、誤飲、溺死など大人の責任としての予防対策をアドバイスしたパンフレットです。 ・目で見える子どもの事故予防 ■定価262円(税込み) ■A5判・32頁/オールカラー ■監修 緑園こどもクリニック院長 山中 龍宏 「ヒヤッ」とした経験はタイミングがずれていたら大事故になっていたかも知れません。この不慮の事故が毎年繰り返され、子どもの健康や命が失われています。子どもの事故予防は事前に予防策を講じるしか方法はありません。この冊子は事前に予防策を講じる方法とポイントが図説で紹介され、どうすれば子どもを守れるのかを具体的に示しています</p>	

健やか親子21推進協議会・参加団体の行動計画（課題3）
 -小児保健医療水準の維持・向上させるための環境整備-

団体名	課題に対する団体としての15年度の取り組み	15年度の取り組み実績	16年度の取り組み行動計画
22. (社) 日本家族計画協会		<p>(3) 誤飲防止ルーラー ■定価 1セット2,000円(税別)(50枚入り) ■厚紙、型抜き製、120×150mm ■監修：緑園こどもクリニック院長 山中龍宏 朝日大学歯学部教授 田村康夫 行政（都道府県、保健所、市町村）・学校・幼稚園・保育園・病院・企業単位でのご注文はTEL：03-3269-4727までお問い合わせください。</p> <p>手軽な子どもの誤飲・窒息予防教材</p> <p>この誤飲防止ルーラーは母子健康手帳などのしおりとして使用しながら、誤飲と窒息予防を実践してもらおうグッズです。誤飲チェッカーと同じく科学的なデータにもとづいて制作されました。誤飲と窒息予防を考えると咽の奥までの長さも重要になります。楕円形に入るものは注意が必要です。母子健康手帳と一緒に母さんに渡し、日頃から乳幼児の誤飲事故予防に注意してもらいましょう。裏面にはためになる乳幼児のためのコラムが載っています。</p>	

健やか親子21推進協議会・参加団体の行動計画（課題3）
 -小児保健医療水準の維持・向上させるための環境整備-

団体名	課題に対する団体としての15年度の取り組み	15年度の取り組み実績	16年度の取り組み行動計画
22. (社) 日本家族計画協会		<p>●この黄色い積み木は誤飲防止ルーラーの円の中に入りますので、赤ちゃんの口に入ります。誤飲物を縦、横、斜めにして39mm、51mmの楕円形に入るようであれば、飲み込んだり窒息する危険があります。誤飲防止の目安にして下さい。</p> <p>SIDS（乳幼児突然死症候群）編 ●乳幼児突然死症候群（SIDS）の約8割がおおよそ生後6か月までにおこります。この誤飲防止ルーラーは予防のためのチェック項目が記載され手軽な啓発教材です。</p> <p>応急処置 心肺蘇生法編 ●心肺蘇生法は親として覚えておきたい応急処置の一つです。この誤飲防止ルーラーには、いざとというときに役立つ気道の確保、人工呼吸法、心臓マッサージを掲載いたしました。乳児と幼児の両方を記載しましたので、母子健康手帳に挟んでおくのとつさの時に役に立ちます。</p> <p>予防接種編 ●予防接種を受ける前は赤ちゃんの健康状態に注意をしなければなりません。この誤飲防止ルーラーは誤飲物をチェックできるほかに、予防接種を受ける前のチェック項目が記載されております。</p> <p>(4) 誤飲チェッカー</p> <p>誤飲チェッカー 誤飲・窒息防止教材 ■定価 1個500円（税別） ■透明アクリル製 ■監修：緑園こどもクリニック院長 山中龍宏 朝日大学歯学部教授 田村康夫</p>	

健やか親子21推進協議会・参加団体の行動計画（課題3）
 -小児保健医療水準の維持・向上させるための環境整備-

団体名	課題に対する団体としての15年度の取り組み	15年度の取り組み実績	16年度の取り組み行動計画
22. (社) 日本家族計画協会		<p>新しい子どもの誤飲・窒息予防教材 この誤飲チェッカーは子どもの誤飲や窒息を予防するために開発されました。乳幼児の口腔を計測するなど科学的な数値を求めて制作されたものです。子どもが誤飲しそうな物をチェックして子どもの誤飲事故を防止しましょう。</p> <p>誤飲チェッカーの使い方 ●チェッカーの中に隠れている縫は、飲み込んだり窒息する可能性があります。また、隠れなくてもこの円筒の中に入る物は赤ちゃんの口に入ります。いろいろな物をチェックしてみましょう。 ●子どもの口腔と誤飲チェッカーの側面図 ●この赤いチョークはチェッカーの中に隠れていますので飲み込む危険があります。タバコはこのチョークより細くて長いですからチェッカーに隠れませんが、柔らかいので折り曲げるとチェッカーの中に隠れてしまいます。したがって、たばこは赤ちゃんの口に入り飲み込んでしまう危険があります。</p> <p>誤飲チェッカーの使い方 チェッカーの中に隠れるものは、床から1m以上の高さに置きましょう。 ・3歳の赤ちゃんが口を開けたときの最大口径は約39mm、のどの奥までは約51mmありますので、その値を誤飲防止の目安にしましょう。 ・このチェッカーの中に隠れるものは、飲み込んだり、窒息する危険があります。 ・このチェッカーに隠れるものは、床から1m以上の高い場所に置くようにして下さい。 ・ご家族みんなで誤飲しそうなものをチェックしましょう。</p>	

健やか親子21推進協議会・参加団体の行動計画（課題3）
 -小児保健医療水準の維持・向上させるための環境整備-

団体名	課題に対する団体としての15年度の取り組み	15年度の取り組み実績	16年度の取り組み行動計画
22. (社) 日本家族計画協会		<p>赤ちゃんが5か月になったら、誤飲チェッカーでチェックしましょう。 生後5か月を過ぎると、赤ちゃんは何でも口に入れるようになります。</p> <p>赤ちゃんはどんどん発達していきます。昨日手が届かなかったところに、今日は手が届くようになるのです。 赤ちゃんの手が届くところに口に入る大きさのものがあれば、必ず誤飲が発生します。 前もってチェックするしか確実な防止法はありません。</p> <p>図1 危険 すっぱり隠れる物体 これは口の中に入り、飲み込む危険があります。また、窒息する可能性もあります。（コイン、ボタン、指輪、スーパーボール、マグネット、ナッツ、キャンディーなど）</p> <p>図2 危険 細長い物体 串や箸のように長さが51mm以上あるものは飲み込めませんが、太さが39mm以下ですから口に入ります。口腔内を傷つけたり刺したりしますので危険です。</p> <p>図3 危険 折り曲がる物体 長さが51mm以上でも丸めたり折れたりするとチェッカーの中に隠れてしまうものは口の中に入り危険です。（タバコ、柔らかいゴム製品、銀紙、ばね類など）</p> <p>図4 安全 入らない物体 この球は直径が39mm以上あり、チェッカーの中に入りませんので口に入る危険がありません。</p>	

健やか親子21推進協議会・参加団体の行動計画（課題3）
 -小児保健医療水準の維持・向上させるための環境整備-

団体名	課題に対する団体としての15年度の取り組み	15年度の取り組み実績	16年度の取り組み行動計画
22. (社) 日本家族計画協会		<p>(5) IECパネル 子どもの事故予防シリーズ21点 IECパネル 子どもの事故予防シリーズ 21点 ■頒価 各1枚12,000円(税別) 名入れ可(名入れ印刷代各1枚1,000円) ■A1判(841×594×10mm) / 特殊紙使用(PP加工) / アルミフレーム仕様 / 留め金・かけひも付 ●アルミフレームの他に下記の3種類のアイテムがあります。 行政(都道府県、保健所、市町村)・学校・幼稚園・保育園・病院・企業単位でのご注文はTEL: 03-3269-4727までお問い合わせください。</p> <p>*ご希望に合わせたオリジナルパネルも制作しますのでお問い合わせ下さい。 ●チャイルドシート編 179 ママの腕よりチャイルドシート 180 乳児期に多いだっこ乗車の事故 181 危険です。幼児期のそのまま着座 182 子どもには大人用シートベルトは使わない 183 乳児用: 取り付けは進行方向後ろ向き 184 幼児用: 正しく使用しないと予防効果なし 185 学童用: 子どもに習慣づけようチャイルドシート</p>	
22. (社) 日本家族計画協会		<p>●子どもの事故予防編 186 死亡原因のトップは「不慮の事故」 187 目を離した一瞬に起こる誤飲事故 188 窒息事故は非常に危険 189 乳幼児は転びやすい 190 やけどの多発は6か月から1歳半 191 乳幼児は少量の水でおぼれます 192 チャイルドシートなしは大事故になる 193 ここをチェック、すぐ改善1 寝室・リビング 194 ここをチェック、すぐ改善2 キッチン・ダイニング・お食事 195 ここをチェック、すぐ改善3 玄関・階段 196 ここをチェック、すぐ改善4 お風呂・洗面所・トイレ 197 ここをチェック、すぐ改善5 ベランダ 198 ここをチェック、すぐ改善6 お出かけ・公園 199 ここをチェック、すぐ改善7 レジャー</p>	